

計画の名称	「吉野・熊野・高野の国」の連携による世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」地域の観光地域活性化（重点）												
計画の期間	令和02年度～令和06年度（5年間）								重点配分対象の該当	○			
交付対象	三重県												
計画の目標	世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に登録されている観光資産を活用し、「吉野・高野・熊野の国」事業実施委員会により、両県一体となり観光促進のための社会資本整備を実施することで広域的な交流の促進、観光活性化を図る。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	880	A	880	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H30	R5	R6
1	【三重県・和歌山県 共通目標】 観光入込客数1,714万人（H30）から1,885万人（R6）に増加（171万人（10%）の増加）			
	【三重県・和歌山県 共通目標】 観光入込客数 （観光入込客数の増加割合）=（評価時点の年間観光入込客数 - H30の年間観光入込客数）/（H30年間観光入込客数）	1714万人	1850万人	1885万人
2	【三重県 単独目標】 観光入込客数232万人（H30）から255万人（R6）に増加（23万人（10%）の増加）			
	【三重県 単独目標】 観光入込客数（東紀州地域） （観光入込客数の増加割合）=（評価時点の年間観光入込客数 - H30の年間観光入込客数）/（H30の年間観光入込客数）	232万人	250万人	255万人

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業																			
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												R02	R03	R04	R05	R06			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
広域連携事業	A11-001	道路	一般	三重県	直接	三重県	都道府 県道	改築	(主)七色峡線(瀬戸バ イパス)	バイパス L=0.8km	熊野市					450	-		
	A11-002	道路	一般	三重県	直接	三重県	都道府 県道	改築	(主)七色峡線(神川)	現道拡幅 L=0.6km	熊野市					430	-		
											小計					880			
												合計					880		

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	R02				
配分額 (a)	0				
計画別流用増 減額 (b)	0				
交付額 (c=a+b)	0				
前年度からの繰越額 (d)	0				
支払済額 (e)	0				
翌年度繰越額 (f)	0				
うち未契約繰越額 (g)	0				
不用額 (h = c+d-e-f)	0				
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0				
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

事前評価チェックシート

計画の名称：「吉野・熊野・高野の国」の連携による世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」地域の観光地域活性化（重点）

事 前 評 価	チェック欄
I. 目標の妥当性 基本方針・上位計画等との適合等 1) 基本方針と適合している。	○
I. 目標の妥当性 基本方針・上位計画等との適合等 2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性 目標と広域的特定活動及び拠点施設との関係 1) 広域的特定活動により、目標達成の可能性が高い。	○
I. 目標の妥当性 目標と広域的特定活動及び拠点施設との関係 2) 広域的特定活動の拠点としての拠点施設の位置づけが妥当である。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 3) 指標・数値目標が分かりやすいものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 4) 拠点施設・拠点施設整備事業と基幹事業の一体性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
II. 計画の効果・効率性 事業の効果 1) 十分な事業効果が確認されている。	○
II. 計画の効果・効率性 事業の効果 2) 他の事業との連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性 計画の具体性 1) 拠点施設で広域的特定活動が実施される見込みが高い。	○
III. 計画の実現可能性 計画の具体性 2) 拠点施設整備を新たに行う場合、その蓋然性が高い。	○
III. 計画の実現可能性 円滑な事業執行の環境 1) 民間事業者等の多様な主体との連携が図られている。	○
III. 計画の実現可能性 円滑な事業執行の環境 2) 事業実施のための環境整備が図られている。	○